

総務消防委員会調査視察

実施日：令和7年5月13日～15日

視察の目的

本委員会では、自分自身や家族の身の安全を守るために誰もが防災意識を持つことが重要であるとの認識から、住民だけで避難所の開設・運営が可能な「アクションカード」を作成された串本町と、楽しみながら防災を学べるイベントなどを通じて、防災意識の向上に取り組まれている倉敷市の事例を調査することとした。

また、公共施設の配置状況や利用状況などを分析し、効率的な施設配置などの方針を盛り込んだ計画を策定された新見市の事例を調査することとした。

〔総務消防委員会の令和7年の重点事項〕

- (1) 地域防災力の強化・向上に関する調査・研究
- (2) 持てる資産の効果的な活用に関する調査・研究

舞鶴市議会のホームページに視察報告書を掲載していますので、ご覧ください。



視察先及び日程

日	程	視察先	調査事項
令和7年5月13日(火)	15時30分～17時00分	和歌山県串本町	「アクションカード」を用いた避難所開設について
令和7年5月14日(水)	14時30分～16時00分	岡山県新見市	新見市公共施設機能再配置計画、個別計画について
令和7年5月15日(木)	9時00分～11時00分	岡山県倉敷市	自助意識を高めるための行政の支援について

総務消防委員会調査視察

実施日：令和7年5月13日～15日

【和歌山県串本町】

調査事項：「アクションカード」を用いた避難所開設について

《串本町の取組の概要》

- ◇ 住民だけで避難所の開設・運営が可能な「アクションカード」を作成し、住民を主体とするカードを用いた避難訓練も実施されている。
- ◇ 避難訓練では、カードに記載された内容に沿って、住民自らが「避難所施設の外観・内部の安全確認」、「避難者の受付」や「居住スペースの作成」など避難所の開設・運営訓練を実施されている。
- ◇ 避難訓練の参加者からは、「アクションカードにより何をすべきかが理解でき、スムーズな避難(訓練)につながった」などの声があった。



串本町職員から説明を受ける

《委員の所感》

- 様々な場面や役割に応じたアクションカードを用いることで、誰もが確実に避難所を開設できるように工夫されているため、自助を高めるためには有効な取組と感じた。
- 避難所の開設・運営が「公助」だけでなく、「自助・共助」にも属するという考え方が広まることで、「自助」の意識が変わり、様々な効果をもたらすことが期待できる。人口減少などで過疎化が進む集落での「アクションカード」の活用を検討したい。



アクションカード

総務消防委員会調査視察

実施日：令和7年5月13日～15日

【岡山県新見市】

調査事項：新見市公共施設機能再配置計画、個別計画について

《新見市の取組の概要》

- ◇ 公共施設の配置状況や利用状況など基本的な情報を分析し、効率的な施設配置、施設機能の強化、更新費用の縮減と平準化などの具体的な方針を盛り込んだ「公共施設機能再配置計画」などを策定されている。
- ◇ 基本方針を「コスト」、「質」、「量」の見直しとし、「コスト」の見直しにおいては、ライフサイクルコストの視点を取り入れ、更新費用の縮減と平準化、官民連携などによる財政負担の軽減を図られている。



新見市職員から説明を受ける

1 計画の目的

公共施設の最適化に向け、基本的な考え方を定めた「新見市公共施設等総合管理計画」を着実に推進するため、施設機能などを調査・分析し、施設機能の再配置について具体的な方針を示す「新見市公共施設機能再配置計画」を策定します。

本計画に基づき、必要なサービスを長期的かつ安定的に提供していきます。



《委員の所感》

- 統合・再編に伴う施設の廃止、除却には地域住民の反対が必ず起きるので、そこをどのように丁寧に説明し、理解してもらうかが重要であると確認できた。
- 舞鶴市は、これまで公共施設の統廃合について、意見交換やワークショップを数多く開催しているが、計画の周知も重要であると感じた。

総務消防委員会調査視察

実施日：令和7年5月13日～15日

【岡山県倉敷市】

調査事項：自助意識を高めるための行政の支援について

《倉敷市の取組の概要》

- ◇ 「くらしき防災フェア」、小学生や中学生への防災教育、職員の戸別訪問による個別避難計画の作成支援など、市民が自分や大切な人を災害から守る自助意識を高めるための支援に取り組んでいる。
- ◇ 「くらしき防災フェア」は、「気軽に楽しく防災を学ぶ」をテーマに、防災や日頃の備えを考えるきっかけを提供され、令和6年度は約1万5千人が来場された。
- ◇ 小学校3年生、5年生、中学校2年生の授業のカリキュラムとして年間3時間を防災教育に割り当てる、避難行動要支援者名簿の登録者を職員が訪問し、個別避難計画の作成を支援し、その後のフォローアップを行うなど、様々な支援をされている。



くらしき防災フェアのチラシ



倉敷市職員から説明を受ける

《委員の所感》

- 「くらしき防災フェア」は、防災を学べる要素を確保しつつ、飲食ブースなども設置して、市民目線に立った企画運営をされていたので、楽しみながら市民の自助意識の向上が図られていると感じた。
- 防災訓練を「防災フェア」というイベントに切り替え、「楽しめる、学べる防災訓練」として実施されていることが大きな特徴で、多くの市民が防災を考えるきっかけになる取組であると感じた。
- 自主防災組織の運営を地域任せにすることなく、町内会などの活性化にも寄与する取組などをされていることから、倉敷市の取組を参考としたい。